

豊年祭（プリヨイ、アサヨイ）の意味

ふるさと特派員 前大 安男

西表の稲作文化の象徴であるプリヨイ（豊年祭）は、年初めの種取りに始まり苗下しの行事から田植え、そしてユニンガイ（世願祭）の後、プリヨイを迎える。

各御嶽（6か所）にて神司さまによる祈願により、各行事が粛々と行われる。それぞれの御嶽を管理するのはチヂミと呼ばれ、神司と共に代々継承されている。各チヂミ宅では氏子たちが集合して今年の豊年に感謝し各氏子たちの健康が祈願される。そして、夕日も落ちる頃からタイマツが焚かれ、タイマツを先頭に氏子たちが続き、部落の中心に赴く。他方、部落の中心にはすでに各御嶽からの氏子たちが集合して東西に分かれて綱引きが行われる。この綱引きの勝敗により、今年の豊作具合が占われる。タイマツが焚かれた暗闇の中、この綱引きを合図にしてプリヨイはいよいよクライマックスである。東西から進み出た勇者が舞台の上で勇壮な戦いが演じられる。その合間には子供会の一同が製作した子供みこしが疾走し、部落の中心でみこしが高々と振り回され、プリヨイのには欠かせないものとなっている。



6御嶽のひとつ前泊御嶽のチヂミ宅にての行事。



各御嶽を回る子供会一同と子供みこし。



部落の中心で行われる勇者の演武。

